

令和6年度 病害虫情報 第8号 トマトキバガ【詳細版】

対象作物：トマト、ミニトマト（特に夏秋トマト）

【トマトキバガの発生に注意】**◎ トマトキバガの「幼虫」が葉や果実を食害します！**

- ・群馬県内では、令和6年7月に中部地域に設置した侵入警戒トラップで誘殺が初めて確認され、同年10～12月に西部、北部、東部の各地域の同トラップに誘殺が確認されました。総誘殺数は北部のトラップで最も多くなっています（図1）。
- ・被害が発生している県では、目合いの細かい（0.8mm以下）防虫ネットの設置が無い又は農薬の散布回数が少ない地域のトマトで被害が見られます。
- ・群馬県内ではこれまでに作物の被害は確認されておりませんが、今後発生する可能性があります。特に夏秋トマトでの被害が懸念されますので、食害痕を発見したらすぐに防除をお願いします（図6、7）。

I.発生状況

① 国内の発生状況

- ・本虫は令和3年10月に国内で初確認された以降、急速に拡大し、現在では47都道府県すべてでトラップへの誘殺が確認されています。
- ・そのうち18道県で食害等の被害が報告され、被害作物はトマト又はミニトマトのみです（令和7年3月時点）。

② 県内の発生状況

- ・県内4ヶ所に設置している本虫の性フェロモンを利用した侵入警戒トラップでは、令和6年7月にはじめて中部地域のトラップで誘殺が確認されました。
- ・その後、すべての地点のトラップで誘殺が確認され、総誘殺数は北部で最も多くなりました（図1）。
- ・県内で農作物への被害は報告されていません（令和7年3月時点）。
- ・本虫は寒さに強く、降雪地域の無加温ビニルハウス内においても越冬が可能とされており、県内で越冬している可能性が考えられます。そのため、令和7年は早い時期から県内で飛来することが考えられ、農作物への被害が心配されます。

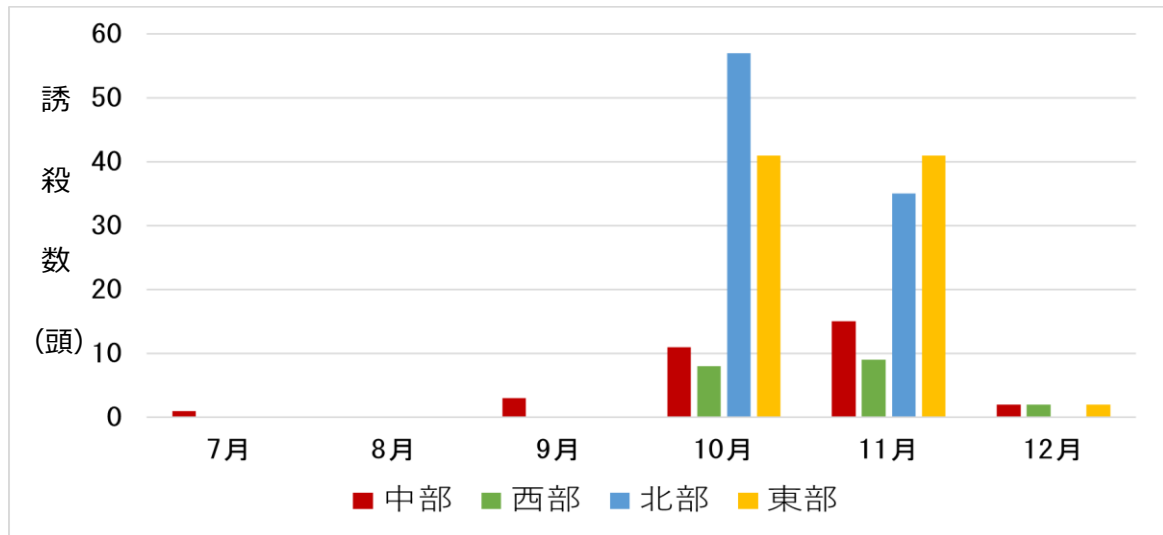


図1 県内のトラップへの誘殺状況 (令和6年7月～12月抜粋)

※トラップ設置期間は中部・西部・東部は通年、北部のみ5月～11月末まで

II. トマトキバガの形態

- ① 成虫は体長が5～8mmで、前翅は灰褐色に黒色斑が散在します(図2)。雌成虫は一生で260個ほど産卵し、年10～12世代発生するとされています。
- ② 蛹は薄い繭をつくります。幼虫は狭い場所で蛹になることが多いため、マルチ裏や誘引紐等の資材の隙間で見つかることがあります(図3)。
- ③ 幼虫はふ化直後の体長が0.5mm、終齢幼虫は8mm程度で、頭部後方に黒色の帯があるのが特徴です(図4)。葉や果実の内部に食入することで、農作物の被害を引き起こします。
- ④ 卵は0.2～0.4mmの黄色からクリーム色の円柱形で、葉の表裏や茎、特に新葉や生長点付近に多く産卵されます(図5)。



図2 成虫



図3 蛹



図4 老齢幼虫



図5 卵

III. 被害の特徴

- ・本虫の主な寄主作物はナス科植物とされていますが、国内で被害が報告されている作物はトマト、ミニトマトです。
- ・特に東北地方の夏秋トマトでは被害が増加しており、目合いの細かい(0.8mm以下)防

虫ネットの設置が無い又は農薬の散布回数の少ないほ場のトマトでは大きな被害となった事例があります。

- ・葉への被害は、幼虫が卵からふ化すると葉肉内を食入するため食害痕が生じます。**本虫の特徴として、面的な食害で排泄した糞は一ヶ所にまとまること、葉裏からも食害痕が鮮明に確認でき、内部の幼虫や糞が透けて見えることがあげられます**（図6）。特に新葉や生長点を好んで食害するため芯止まりになることがあります。
- ・果実への被害は、果実表面を食害、果実内部に食入することで腐敗が生じ、商品価値を著しく低下させます。また、果実とへたの隙間に潜入している場合も多く、見過ごしやすいので注意が必要です（図7）。
- ・被害茎葉や被害果実から二次的に灰色かび病が発生することがあります。



- ・面的な食害
- ・糞は一ヶ所にまとまる（矢印）

図6 トマトキバガの被害葉



- ・果実内部に食入する（左図）
- ・果実とへたの間に潜入すると見過ごしやすい（右図矢印）

図7 トマトキバガの果実被害

IV. 類似する食害痕を示す害虫

① ハモグリバエ類

- ・葉の被害はハモグリバエ類の被害と類似します。
- ・ハモグリバエ類の食害痕は線的な食害であることや、糞は食害しながら排泄するため散らばっている点で区別ができます（図8）。
- ・葉の食害を誤ってハモグリバエの被害と判断し、トマトキバガに対する適切な防除が遅れてしまう事例があるため、被害の特徴をよく確認してください。

② オオタバコガ

- ・果実の被害はオオタバコガの被害と類似します。
- ・小さな食入痕の段階では見分けが難しい場合がありますが、**オオタバコガの場合は、食入痕に湿った糞を大量に排出する点で区別ができます**（図9）。



・線的な食害
 ・散らばって排泄された糞
 (矢印)

図8 ハモグリバエ類の被害葉



・湿った大量の糞 (矢印)

図9 オオタバコガの被害果実

V.防除対策

① 物理的防除

- ・ハウスの開口部全てに防虫ネット（目合い0.8mm以下）を設置してください。

② 耕種的防除

- ・苗に寄生していないかよく確認し、健全な苗を定植してください。
- ・幼虫や卵の除去、灰色かび病等の二次的な感染防止のため、摘葉や整枝を適切に行ってください。
- ・残さは本虫の発生源となるため栽培終了後は速やかに処分してください。特に被害茎葉及び果実は、土中深くに埋設するか、ポリ袋等で十分密閉したのち適切に廃棄してください。
- ・周辺のナス科雑草は増殖源になる可能性があるため、除草に努めてください。

③ 化学的防除（薬剤散布）

- ・ほ場での発生や作物被害が確認された場合は直ちに薬剤散布を行ってください。
- ・オオタバコガやコナジラミ類を防除する際に、本虫にも登録のある薬剤を選択することで本虫の発生抑制につながります。
- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避けてください。

早期発見・早期防除で被害を抑えましょう。

※図 2,4 は農林水産省原図、図 3,5~9 は提供：岩手県病害虫防除所 【無断転載禁止】

※引用：岩手県病害虫防除技術情報 R5-2,R5-3

★農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている使用方法、注意事項等を確認して適正に使用してください。

お問い合わせ先：群馬県農業技術センター 環境部 発生予察係 TEL:(0270)62-1059